

保護司国際研修に参加して

さいたま保護観察所 保護司 志村 巖

2015年1月27日・28日の1泊2日、国連アジア極東犯罪防止研修所での平成26年度第2回保護司国際研修に参加した。研修の目的は、第159回国際高官セミナーの参加及び同セミナー参加者との意見交換等を通じ、日本及びアジアを中心とする諸外国における犯罪者処遇上の諸問題を検討するとともに、日本の保護司活動等を紹介することを目的とする、というものであった。

初日は全国の参加保護司より事例発表をし、それに対して質疑応答をし、その後フリーディスカッションを行った。アジ研のカンファレンスルームにてヘッドフォンを着用、同時通訳を介しての会議は初体験でとても刺激的なものであった。

各国の高官も事前の学習をしていたとみえて、我々の想像以上に保護司制度を理解していたことに驚いた。

「なぜボランティアで、そこまで高い志が持てるのか?」、「保護司をしていて一番やりがいを感じるのはどういった場合か?」や更生保護サポートセンター、保護司の人材確保に関してなど、討論項目は多岐にわたり非常に内容の濃いものであった。

多くの参加高官の方々より我々保護司活動に対して大きな賞賛の言葉の数々を頂いたのは、なによりのギフトであった。

夕食後の懇親会ではカラオケも入り、英語、タガログ語、ポルトガル語、日本語等が入り混じり実に楽しいひと時だった。最後に肩を組み円陣になり“WE ARE THE WORLD”を熱唱したのは一生の思い出となるだろう。

2日目には客員専門家として米国ニュージャージー州ラトガース大学刑事司法学部教授、ボニータ・ベイジー博士より「犯罪からの離脱と犯罪者の回復プロセス」の講義を受けた。犯罪者に対し「セカンド・チャンス」、「人生のやり直し」というキーワードを頂き、社会内処遇、ソーシャルインクルージョンの重要性を再認識させられた。

事前学習として博士の著書を米国から取り寄せており、サインを頂戴したのも良い思い出である。

研修の最後にアジ研修の山下所長より国際研修修了証と記念のネクタイを頂き2日間の日程を終了した。

参加当時まさに国際社会が揺れる事件が発生していた時期でもあり、アジ研(UNAFEI)の果たしてきた役割の大きさを初めて知り、今後も微力ながらこの活動に関わって行こうとも思いを強くした。

関係者の皆さまには大変お世話になりました。ありがとうございました。